

# かのや100チャレ

テーマ1：地元に戻りたくなる!!

地元じゃなくても住みたくなる!!街づくり  
～日本一住みたいまち「鹿屋」の未来をデザイン～

鹿屋の強み「農業」を活かした、土地利用計画

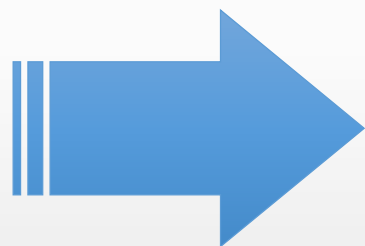
沼津市立沼津高等学校

チーム名：チーム市立沼津

齋藤千尋 加藤桃佳 楠山花 杉山実咲 北村優羽菜 眞野奈月音

# なぜUターンする人が少ないのか？

- ・ **働ける企業**が少ない（＝働きたい企業が都市部にある）
- ・ **アクセス**が悪い
- ・ 田舎である
- ・ 東京からの距離が遠い
- ・ **年収**が下がるかもしれない
- ・ 都市部のほうが**キャリアアップ**しやすい
- ・ **娯楽施設**が少ない
- ・ **商業施設**が少ない



その中でも私たちが注目したのは、、、↓

「働ける企業が少ない」ということ！

鹿屋市：事業所総数	4,966事業/101,096人
福岡市：事業所総数	75,362事業/1463,743人

# 取り組み①

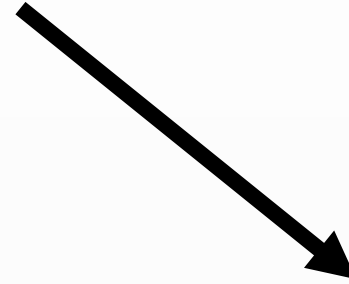
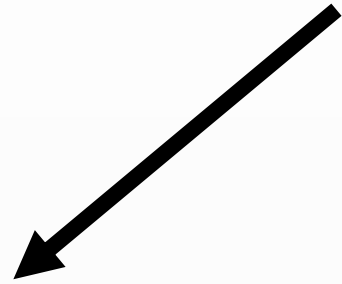
ICT企業と鹿屋市の農業で連携をとる

鹿屋市の広大な耕地面積（94.1km<sup>2</sup>）を  
実験用に、企業に貸し出す



都市部や県外からの移住者、Uターンする人が増える

そこで私たちが提案するプロジェクトは



「アグリテック」と結びつける！！

# 「アグリテック」とは？

**農業（Agriculture）**と**テクノロジー（Technology）**を  
組み合わせた造語。

AIやIoT、ドローン、ビッグデータなどの最新テクノロジーを導入することによって**農業領域における課題**を解決するというもの。  
ビジネスチャンスが多い、近年成長が著しい分野であり、  
「**農業従事者の働き方**」と「**ノウハウの可視化と分析**」の二つに分けることができる。

- ・ 高齢化、担い手不足
- ・ 耕作放置増加
- ・ TPPによる価格競争

# メリットとデメリット

## メリット

- ・ 鹿屋市が利益を得られる
- ・ 農業参入する企業が増える
- ・ ICTに知識のある若い世代が移住してくる
- ・ 農作業の効率化が図れる



## デメリット

- ・ 騒音
- ・ 近隣住民からの許可が必要である

## 取り組み②

農業や自然の魅力に触れてもらう

週末家庭菜園用に土地を貸し出す



市外に在住している人の利用、訪問が増える



# メリットとデメリット

## メリット

- ・耕作放棄地を整備して貸し出すことで、放棄地がなくなる
- ・農業の大変さや、やりがいを知ってもらえる
- ・鹿屋市の特産物や自然の良さについて知ってもらえる



## デメリット

- ・利用希望者が少ない可能性がある
- ・継続的に農作業し続けられる人でないといけない
- ・利用者がいない間の管理が難しい

## まとめ

私たちが考えたこの二つの取り組みを通して、

- ▶ **ICT企業**やそこで働く**人材**の定着化が図れる
- ▶ 鹿屋市の強みである**農業**を活かして町の発展が期待できる
- ▶ **鹿屋市の事業者総数**が増え、働きながらキャリアアップを目指しやすい環境ができあがる